



役員会だより



日本聖公会東北教区婦人会

指導聖句

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである。」 (マタイ 18:20)



目次

- P. 1 「感謝と祈りのうちに」…………… チャプレン 司祭林国秀
「この2年間を振り返っての感謝」…………… 会長 赤坂康子
- P. 2 第47回東北教区婦人会についてのお知らせ
- P. 3 2020年度東北教区感謝箱献金先のご紹介「カナンの園」
- P. 4 「東日本大震災被災者支援プロジェクト」「平和のきずな献金」
東北教区婦人会アルバムについて
- P. 5 日本聖公会婦人会からのお知らせ「リデラルライト」「釜石支援センター望」
- P. 6 ACWCJ 委員（日本聖公会担当）からの報告…藤井美佐子姉、松崎尚美姉
日本聖公会管区女性デスクからのご案内……………吉谷かおる姉
- P. 7 編集後記

感謝と祈りのうちに

東北教区婦人会チャプレン
司祭 ヤコブ 林 国秀

盛岡聖公会婦人会が東北教区婦人会役員会の任を受けてから早や 2 年が経とうとしています。これまでのお祈りとお支えに感謝いたします。そしていよいよこの「役員会だより」の発行も盛岡の当番としては、最後になります。

この 2 年間、世界中がそうであったように、教会も女性・婦人たちが力を結集し、これまで以上に教会において働きを強められ、さらに社会の様々な働きにも参画されていくことを願い、多くのエールが贈られてまいりました。しかし、昨今それぞれの教会の状況の変化等により、この 2 年の間に女性の力の結集の目に見える形である婦人会の解散が続く、その数が減る一方で、個人会員として加わる方々が増えることとなりました。

形あるものはその時代の流れとともに変わることは、受け入れなければならないことと覚悟できますが、婦人会において変わらぬもの、変えてはならないものは、感謝箱献金と婦人会のお祈りだと思っています。私が子どもの頃にも、感謝箱献金があり、私の家の鏡台の所に三角の箱が置いてあったのを覚えています。おもちゃ替わりにして、よく叱られもしましたが、母は何やらお祈りをしてからその箱にお金を入れていました。その母の祈る姿から大切なことを伝えられたように思っています。そのような小さな捧げものが集められ、目に見える神様の大きな働きとなっていることを知った時、感動さえ覚えました。これからも婦人会の信仰の原点である感謝箱献金が続けられ、感謝と祈りのうちに歩まれることを心からお祈りしたいと思います。



この 2 年間を振り返っての感謝

東北教区婦人会
会長 赤坂康子

昨年 2 月に仙台基督教会で総会が開催され、役員会が宮城県から岩手県に移り、3 月の引継ぎを受け、吉田雅人主教からの祝福を頂いた時の緊張と感動を今更のように思い出します。

初めての会長体験に右往左往しながら、役員一同で力を合わせて「目の前のことを丁寧にしっかりと向き合って」を念頭に置き、チャプレン林国秀司祭のご指導のもとに、何とかここまでまいりました。次年度役員との交渉にあたり、2 教会から婦人会の退会のお返事をいただいた時は責任を感じ、皆様に申し訳なく思いました。今年になりコロナ感染の拡大により、ブロック会・代表者会議も開くことが出来ませんでしたので、皆様との情報を共有するために「役員会だより」の発行に力を入れ、会員のすべての皆様のもとにお届けできるように印刷部数を増やしました。

2019年6月埼玉の志木聖母教会での3年に一度の日本聖公会婦人会総会に於いて、東北教区婦人会から感謝箱献金の奉獻先としまして、一般社団法人岩手県難病・疾病団体連絡協議会の議案を提出し、承認され15万円の支援をいただきました。今年度の総会后第1回日本聖公会婦人会会長会は新型コロナウイルス感染拡大の不安のために、オンラインによるWeb会議となり、初めての経験をさせていただきました。

また日聖婦からの要望でホームページの各教区婦人会からの更新は、東北教区のホームページから行ってほしいとのことで、教区事務所をお願いいたしました。教区事務所の御協力に感謝です。敬老基金運営委員会にも出席させていただき、活動についての理解を深めることが出来ました。

新型コロナウイルス感染がなかなか収束されず、東日本大震災の時と同じように、今までに想像もしたこともない生活体験を強いられています。私たちが当たり前だと思っていたことへの感謝に気づかされます。人と人との繋がりが日々の生活にいかに大事なことを実感しています。

第47回教区婦人会総会は書面議決の総会となりますが、準備を始めてまいります。会員の皆さまに対しても、至らないことが多々あったことと存じますが、これからも教区婦人会の皆さまとご一緒に祈り、学び、活動ができますように、この2年間のお支えに感謝を持ちまして、次の宮城県にお渡しいたします。

東北教区婦人会第47回総会のお知らせ

来年2021年2月開催予定の東北教区婦人会第47回総会は、東北教区婦人会「会則・細則」の変更を伴う重要な議案について審議をしていただく予定です。通常は一堂に会しての協議の場を持つべきところですが、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない状況を熟考し、通常のカンファレンスを中止とし、今回は書面による議決を行うことといたします。すでにこの件に関しては、教区内のすべての婦人会の皆様からご賛同を頂いているところです。

この「役員会だより」に同封の用紙に、各教会婦人会からの提出議案およびご逝去されました方のお名前をご記入下さい。

2021年1月に「総会しおり」「書面議決書」を作成しお送りいたしますので、議案の承認をお願いいたします。

《今後の予定》

- ・1月下旬 「総会しおり」(議案書)及び「書面議決書」を発行
それぞれの婦人会で議案を協議、承認 (締切2月中旬)
- ・2月下旬 総会決議録 発行
- ・3月初旬 役員会引継ぎ (岩手県から宮城県へ)

2. ～東日本大震災被災者支援プロジェクト～

東日本大震災から間もなく 10 年になります。東北教区の東日本大震災被災者支援プロジェクトでは今後の取り組みとして、3 月 11 日(木)は各地会場に於いて記念礼拝を、3 月 13 日(土)には 14 時より、福島県新地町「祈りの庭」にて東日本大震災 10 周年記念礼拝(ライブ配信予定)をささげます。また「震災証言集」の発行を計画し鋭意作業を進めています。なお 11 月、パンフレットとポスターを新たに作成して、全国の教会や関係機関に配布しました。

3. ～「平和のきずな献金」の紹介～ 《NCC(日本キリスト教協議会)教育部》

2020 年という今年、世界は傷ついています。新型コロナウイルスは多くの犠牲者をだし、歴史的な感染症被害として人々を苦しめています。地球規模で広がっている被害の中で、私たちは恐れています。しかしそんな中でも、人と人が助け合い、繋がり合い、工夫し合って、それぞれの命を大切に作る光景も多く見られました。

募金期間 2020 年 6 月～2021 年 3 月末 (パンフレットより一部の抜粋)

✠ 平和のきずな献金 2020 年の献金先

- ・インド「プリキンダーガルウテンスクール」の教育支援(「里親の会」を通して)
- ・パレスチナ「アハリー・アラブ病院」の活動支援
- ・アイヌ奨学金(キリスト教協力会を通して)
- ・外国にルーツをもつ福島の子どもの教育支援(福島移住女性支援ネットワークを通して)
- ・NCC 教育部平和教育推進基金



°*+--+*°.*+--+*°.*°*+--+*°*+--+*°.*+--+*°.*°*+--+*°*+--+*°.*+--+*°.*°*+--+*

“1947 年から 2019 年の歴史”

東北教区婦人会のアルバム デジタル化しました!



★仙台からの引継ぎの際、いっぱい貼り切れないずっしりと思いの詰まった教区婦人会のアルバムを受け取りました。「次からの分を考えてください」との宿題を頂きました。教区百年の記念の年にもあたりますし思い切っでデジタル化しました。少しぼやけている写真もありますが、プロジェクトで映して皆さんで見ることが出来ます。懐かしい方々に出会えます。



日本聖公会婦人会からのお知らせ

 日本聖公会婦人会から以下のようなお知らせがありました(10月13日) 
感謝箱献金の「災害被災者・東日本大震災被災者支援積立金」から、熊本の球磨村の被災者の復旧支援のため「リデルライトホーム」へ20万円を、東北教区婦人会を通して申請していた「釜石支援センター望」へ10万円が送金されました。

被災された方々と働き手の皆さまを覚えてお祈りしましょう！

社会福祉法人「リデルライトホーム」の紹介



7月4日熊本豪雨災害が発生し、「リデルライトホーム」が支援物資拠点と決定され、熊本 DWAT (Disaster Welfare Assistance Team の略) を結成。DWAT とは災害時における、長期避難者の生活機能の低下や要介護度の重度化など二次被害防止のため、一般避難所で災害時要配慮者(高齢者や障がい者、子ども等)に対する福祉支援を行う民間の福祉専門職で構成するチームです。

(社会福祉法人リデルライトホームについてはホームページをご覧ください。)

★名前の由来であるリデル・ライト両女史の記念館が熊本市黒髪に建てられています。

熊本県初のハンセン病病院回春病院(1898年-1941年)を創立したハンナ・リデルとその後継者エダ・ハンナ・ライトおよび回春病院を記念して、その施設に作られた博物館形式の記念館です。(ウイキペディアより一部抜粋)

地域支援団体「釜石支援センター望」の紹介

釜石支援センター望からは毎月釜石望ニュース「活動報告」が教区婦人会へ届けられています。最近の一部を御紹介いたします。

「ポプリ作り&お茶っこ会」(令和2年9月号望ニュースから一部抜粋)

コロナ禍の中で生まれた釜石支援センター望の新しいコンテンツが「ポプリ作り」です。「マスクケース作り」と同様に簡単な手芸のプログラムで、大町の復興住宅が管理している花壇で咲いていたラベンダーを使用。地産地消です。お茶パック(ティーバッグみたいな袋)に乾燥したラベンダーを詰め、レースのかわいい袋に入れておしゃれなリボンで閉じるだけ。とても簡単です。ストレスのたまるコロナ時代に癒し効果抜群のポプリは大人気。マスクケースも同様ですが、誰かにプレゼントしたいという方が続出しています。誰かを思いながら作ることはとても素敵だと思います。これからも他者とのつながりを意識できるプログラムを続けていければと願っています。

「釜石支援センター望」9月号活動報告(令和2年9月号望活動報告書から一部抜粋)

- *9月に引き続き10月も調理系、運動系プログラムは自粛します。
- *当面は県外ボランティアの受け入れを取りやめます。ご了承ください。
- *県内でのコロナウイルス感染拡大が続いています。状況に応じてサロンを中止にする場合がありますが、その場合は先方の自治会・リーダーと話し合い、了解を得て決めたいと思います。

地域支援団体「釜石支援センター望」代表 海老原祐治(社会福祉士)

ACWC J (アジア教会婦人会議日本) 委員からの報告

藤井美佐子姉、松崎尚美姉

ACWCはアジアの19の加盟国の教会婦人会議です。草の根の運動であるリーストコインの精神と働き、平和への祈りと連帯のため熱い祈りと捧げものをもって60年以上活動しております。コロナ禍によって一層貧しい生活や厳しい状況を余儀なくされるであろう弱いアジアの女性や子供たちを覚えます。この運動のために、これまでと同様お祈りとお支え、「リーストコイン献金」及びACWCの働きを直接支援する「署名キャンペーン」もお覚えくださいますようお願いを申し上げます。



1. 「リーストコイン献金」プロジェクトへの交付金

2019年1月～12月までの一年間に捧げられた日本国内における献金総額は 3,287,256 円。アジア教会婦人会議日本委員会(ACWCJ)の決定により、運営推進費及び活動費として10%を控除した2,959,256円(US\$27,339)を国際委員会宛てに送金することができました。

本年度もアフリカ、アジア、北アメリカ、ヨーロッパ、中東、ラテンアメリカに送られ、日本には東京多摩市のこども食堂「ゆづり葉の家」に\$4,000が交付されました。

アジア教会婦人会議日本委員会(ACWCJ) 2020年7月発行(一部抜粋)



2. 署名キャンペーン

ACWC本部では2002年の大会で、本部活動の働き(大会費用、ニュースレターの発行、奨学金など)のため、「署名キャンペーン」の運動を正規の活動とすることを決定しました。ACWC本部の活動費は加盟国19ヶ国の分担金と献金によってまかなわれています。

ACWCの活動に賛同してくださる方ならどなたでも署名の上、100円を献金していただく運動をすすめています。日本からの献金は重要な働きに直接役立っています。2019年度の献金は、422,109円(2,830名)のご支援をいただきました。2019年度分の献金として、本部へ422,100円を送金することができました。

日本聖公会管区女性デスク 吉谷かおる姉よりご案内

- 1) 〈女性に対する暴力の根絶を求めて祈る〉 礼拝 11月29日(日)東京聖アンデレ主教座聖堂
〔 〔説教〕 司祭 上田亜樹子 (東京教区) *礼拝は「東京教区聖アンデレ主教座聖堂ホームページ」より動画配信とし、公開での礼拝は行いません。 〕
- 2) 〈国際婦人年連絡会2020年度 第3回セミナー〉 12月9日(水) オンライン開催
主催：国際婦人年連絡会 参加費：無料
気候変動の動向と日本・世界の課題 ～COP25・SDGs・ジェンダーの視点もふまえて
講師：遠藤理紗氏(特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター(JACSES)事務局次長
- 3) IAFA-IAWNのジョイントのニュースレター
今回はコロナ禍でのジェンダーに基づく暴力(GBV)を根絶するための16日間キャンペーンとなります。掲載されているMandy Marshallさんは、いまアングリカン・コミュニオン・オフィスでジェンダー正義のディレクターとして働いておられます。世界中で11月25日から始まる16日間が意義あるものとなり、よい成果が得られますように願います。

* 上記につきましては、すでに終了していますが情報が教区婦人会役員会にございます。

詳細をご希望の方はご連絡ください。



よきクリスマスをお迎えください

✎ ー編集後記ー 役員から **“ひとこと”** (最終号にあたって)

- ◇赤坂(会長)～日本聖公会婦人会のホームページをご覧ください。東北教区婦人会のホームページに繋がります。「役員会だより」を掲載しています。
- ◇坂水(副会長)～たくさんの素晴らしい働きに出会い、知ることができた2年間でした。私たち教区婦人会の歩みも明日へとつながっていくと信じています。
- ◇中野(書記)～いつも役員会の引継ぎで大きな存在を占めていた赤い表紙のアルバム(婦人会総会の集合写真)を縦 20cm×横 20cm のフォトブック、DVD プレイヤー用とパソコン・スマホ用 DVD をセットで作りました。見たい時にいつでも気軽に手に取って見ていただけることを願います。
- ◇根田(書記)～難病に関わる仕事をしながらの書記でした。難病があってもそれぞれの地域で尊厳を持って生き生きと生活が送れるように、活動を続けています。
- ◇大星(会計)～感謝箱献金!!なんと素晴らしいことでことでしょう。お一人ひとりの日々の感謝の気持ちが献金となり集結され、大きな働きになるとは!
- ◇高山(会計)～初めての教区の係、皆さんのご指導の下で戸惑いながらもたくさんのことを学ぶ機会をいただきました。婦人会の継続の心配がささやかれる中にも、共に喜びを得られる働きを知り、変わりながらも続けていくことが成長することと感じました。